Contents

学長挨拶 01
岐阜大学の理念と目標 02
岐阜大学憲章 03
岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略 04
戦略１：教育・人材育成 05
戦略２：研究・価値創造 06
戦略３：社会連携・産学連携 07
戦略４：国際展開 08
TOPICS：ネーミングライツ 09
岐阜大学の教育における3つの方針 10
大学組織 11
教育研究組織 12
共同教育研究支援施設・運営支援組織 16

教育　学ぶ岐阜大学

教育推進・学生支援機構 17
学生数 18
入学状況 20
学部卒業者数・進路状況 21
国家試験合格状況・教員採用状況 22
大学院修了者数・進路状況 23
学生支援施設 25
学生サークル活動 26

研究　究める岐阜大学

学術研究・産学官連携推進本部 27
連携拠点支援事業 28
特色ある研究の取り組み 30
科学研究費助成事業 32
岐阜大学発ベンチャー起業数の推移 32
共同研究・受託研究 33
発明届・ライセンス等取入 33

社会連携　貢献する岐阜大学

地域連携推進本部 34
地域協学センター 34
地方自治体との協定 35
公開講座 36
シンポジウム・フォーラム 36
市民大学講座 36
高大連携 36
環境への取り組み 37

国際交流

グローカル推進機構 38
留学生受入・派遣状況 39
学術交流協定締結大学等一覧 41
研究者受入・派遣状況 43
国際交流会館 43
日本語・日本文化教育センター 43
海外オフィス 43

組　織

学長・副学長等一覧 44
構成員数 46
予　算 47
寄附金 47
沿　革 48
歴代学長 49

キャンパス

建物配置図 50
土地・建物 52
所在地 53

学長挨拶

President's Message

岐阜大学は2020年4月に名古屋大学と我が国で最初に総合大学同士の法人統合を果たし，東海国立大学機構として多くの実績を上げつつあります。我が国の地域の中核大学の新たな在り方としての良いモデルとなるべく進化しているところです。

東海国立大学機構が掲げる「Make New Standards for the Public」というミッションを共有し，その上で「学び，究め，貢献する」という本学の理念のもと，ビジョンを「地域共創，特色ある研究，イノベーション，教育を戦略的に推進し，地域と人類の課題解決に貢献する『地域活性化の中核拠点』となる」と定め，世界を見据えた上で，ビジョンを実現するための戦略を策定いたしました。本学の強みである，「産業・まちづくり」，「ものづくり，食づくり」，「医療づくり」，「人づくり」の分野でステークホルダーとの共創のもと，地域社会への教育・研究・社会貢献などから生まれる成果が地域を変えていくこの好循環を，「ぎふのミ・ラ・イ・エ構想」（Migration，Laboratory，Innovation，Education）と名づけ，岐阜大学の価値創造のモデルとして位置づけました。

これらを実現するための施策としては，第一に両大学の強みを結集した，東海国立大学機構連携拠点支援事業の充実です。これは岐阜大学および名古屋大学がそれぞれ持つ強み，リソースなどを融合し，そのシナジー効果が期待できる先進的かつ挑戦的な取り組みで，現在6つの拠点が認定されています。

その中でも特筆すべき事柄としては，「東海国立大学機構・糖鎖生命コア研究拠点」の発展をあげることができます。糖鎖分野における世界トップレベルの研究拠点として，国家プロジェクトである大規模学術フロンティア促進事業「ヒューマングライコームプロジェクト」を担当し，2023年1月には糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟が竣工いたしました。岐阜大学の誇りであります。また，「航空宇宙研究教育拠点」も多くの実績をあげ，岐阜県との連携のもと，航空宇宙産業を中心としたさまざまなものづくり企業に貢献できるサイバー・フィジカル・ファクトリーを実現するための研究開発を進めており，新たに展開枠の支援を受けるに至りました。「One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点」は医学・獣医学・薬学による先進医療と創薬に，応用生物科学部・工学部による食・農・バイオエンジニアリングを加えた革新的なライフサイエンス拠点です。2023年1月にはOne Medicineトランスレーショナルリサーチセンター（COMIT）を立ち上げ，文部科学省の経営改革補助金による支援を受け，研究基盤の整備と地域一体型の臨床研究体制を整えています。一方，「健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点」，「低温プラズマ総合科学研究拠点」に加えて，「量子フロンティア産業創出拠点」が認定されました。地域の中核大学の産学融合拠点の整備として，Tokai Open Innovation Complex岐阜サイトが2024年2月にオープンし，研究力の強化や産学連携の推進に弾みをつけています。カーボンニュートラルおよび気候・環境変動・環境対策もSDGs実現のために重要な課題です。社会課題を科学技術・イノベーションの発展で経済成長のエンジンへと押し上げていきます。

第二に強調したい点は，教育面での改革です。名古屋大学との連携で，全学教育科目の共同授業の実施，特に英語教育や数理データサイエンス・AI教育などの単位互換性授業が可能となりました。大学院博士課程学生への支援強化も充実いたしました。アカデミックセントラルの教育学修環境整備をさらに推進することにより，キャンパスDXを推進するデジタルユニバーシティ構想の実現も楽しみです。

2022年に文部科学省に採択された「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の構築～」（SPARC事業）は，国立，公立，私立の大学が連携法人をつくって共通の教育プログラムをつくるとともに，地域の産官学金との連携を高め，地域に密着した学びを深めることと，地域を活性化する仕組みづくりを進めており，地域創生に貢献しています。

第三に挙げられる発展は，国際展開力です。地域における中核大学を目指すからこそ国際連携・国際交流を推進しなければならないと考えています。「世界で通用する人材こそ地域で活躍できる人材」であります。岐阜大学はすでに大学間では51大学と協定を締結していますが，今後はさらに増やしていきたいと考えています。また，国際化と教育研究力のさらなる向上を図るため，協定校のインド工科大学グワハティ校（IITG）およびマレーシア国民大学（UKM）と，ジョイント・ディグリープログラム（JDP）として4つの国際連携専攻を開設しています。今後は，ヨーロッパ，東南アジアの協定校とJDPの開設を検討するとともに，産学連携して地域まるごと国際交流を推進するプロジェクトも展開していきます。

自治体との連携もこれまで以上に進めていきますが，地域共創に貢献するためにも大学発のスタートアップ支援には一段と力を入れていきます。

岐阜大学は新しいビジョンや戦略を通じて，学生・教員・職員・ステークホルダーの皆様と共に，「地域と世界に開かれ，愛される岐阜大学」を実現し，社会変革の駆動力として成長し続ける経営体」に向けた変革と「持続可能な地域中核大学」としての発展を目指します。

岐阜大学長　吉田 和弘